

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	有限会社 カルピオホーム2	評価実施年月日	平成19年5月12日
評価実施構成員氏名	早坂晴美 黒崎美香 高橋真美 櫛谷宏子 武田信子 清水みゆ 佐藤明美 村岡志保子 浦島知里 佐々木泉		
記録者氏名	早坂晴美	記録年月日	平成19年5月14日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	提携している母体の理念も上げている現状で独自の理念では無い為 今後チーム全体で考え、作り上げていこうと思考中である。	○	独自の理念もチーム全体で検討中である。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念に基づき、個人の生活援助計画に取り組み目標の実現に向け努力中である。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族の方には、理解も得られていると思っておりますが、地域の方には、利用者も少ない為、理念の浸透は難しい。	○	独自の理念が出来る様次第、自治会の回覧板にクルフホムの新聞を見て頂ける様考えたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄り出来るような日常的なつきあいができるように努めている。	来居者が少なく、入居者が少ない環境のため、日常的なつきあいが出来る様努めていきたい。	○	町内会の回覧板を利用して、一般の方にも自由に訪問して頂き、顔見知りとなり、日常的なつきあいが出来る様努めていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会の行事(クリスマス会、敬老会)等に参加させて頂き、交流させて頂いている。		
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	取り組んでいません。	○	施設内のみでの取り組みで余裕がもてない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	理解レサービスの質の向上に取組んでいる。	○	外部評価の改善案に対しては検討し実施している。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では利用者の様子や活動内容の報告、推進委員さんより提案された活動を取り入れサービス向上に活かしている	○	委員さんより利用者との交流をもちたいと意見有 花見と計画作り。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の開催している、イベントには利用者も見学に行き楽しんで頂いている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会はありません。成年後見制度については現利用者については、利用者代理人、身元引当人がいるため活用はしていません	○	捜索、災害時等は、町内の方に協力要請を 自治会長さんを通し話します。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者の行動に制限はなく、生活して頂き、職員はより虐待について常識をもち介護をしている。	○	職員と利用者の信頼関係を常に保ちとし 利用者の不満や相談と話にくれる様な環境作り に心がけている。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時は、契約書と読み上げ納得してもらって捺印して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者より食事に対し食べたい物の希望あり。出来る範囲で提供を行っている。 苦情窓口とホム内に意見箱を設置して、手紙か、現時点ではありません。</p>	○	<p>何か困っている事は何か話しを聞き、不便のない生活に頂く様努力したい。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>御家族様へ月度手紙にて生活面、健康面、出納帳も送り安心して頂き、管理者が出勤時とは報告も行っている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情窓口ホム内管理者、旭市保健福祉課、北海道国民健康保険団体連合会とさせて頂き、現時点では、苦情はありません。 特に機会を設けていませんが、推進委員会にて家族代表の意見を聞く機会があります。</p>	○	<p>苦情があった際には会議を聞き対応していきたい。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体会議を聞き意見や提案を聞く機会を設け反映させている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>日勤者3~4人とっており、対応可能又夜間帯、利用者の状態悪化時は管理者が対応している。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>退職者と新採用者に重なる様、勤務して頂き、利用者との顔なじみとさせて頂いている。</p>	○	<p>新採用者はホムの流れを把握すると同様に入居者の顔や名前も覚え、しっかりと接して頂いている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年に2回に分けて実践研修とケルフトホーム介護スタッフレベルアップ研修に参加し、終了後勉強会を行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	交流する機会はありませんが、提携会社の指導を受けサービスの質を向上させている。	○	今後他の施設の見学も行う。良い処も吸収したい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	業務上の悩みは全体会議の中で意見を出し、必要に応じて上司と相談している。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	より良い介護をしていく上で、納得の出来た介護をした時、心から喜び、向上心も高まっていく。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前にテストメントを取り、本人の思いを聞き、利用者にとって何がよい生活を送れるよう努力している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居の予約時、どのような面で介護面で困っているか、今後どのような点で欲しいかをよく話しを聞き、入居後の課題として支援していく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談時、この様な支援が必要が見極めている。</p>	○	<p>本人の状態により、他の施設への情報提供も行っている。</p>
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用者の状況によって、遊んでいる感覚で日々通ってほしい 徐々に馴染んでその形をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>時間の許す限り、利用者の話に傾聴し支えあう関係を築いている。</p>		
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会の頻度が少ない為、職員が支えあう関係が日々保たれている。</p>	○	<p>1件増し、交流の機会を持つ様努めている。</p>
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>定期的な手紙、電話等で生活状況を報告し、互いに仲良く関係が築いていけるように支援している。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族、知人がいつでも面会に来て頂ける様声掛けしている。</p>	○	<p>散歩やドライブで利用者の希望の場所に連れて行く様努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食卓やリビングのソファでは、出来る限り違う利用者に関わる様 又ドラファルのほかに廊下も考えている。 ドラファル等 職員レベルに外出する際は、看護 あり会話してはな 利用者同士と多量に交流をもて頂いている	○	1階、2階ともに時間がある時は、お互いの階へ行き、 交流を促して頂いており、クリスマス等 1年ほどは1階、 2階 合同で作っている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	訪問者はいない	○	サービス利用終了後は入院や他施設へ入所の方 へは合意している。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時には、本人とともに家具等の配置を行い、暮らしやすい環境 作りを行っている。又家族とも協力してケア、3人感・K 仔らも様 定期的な面会もお願いしている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にバックグラウンドにて生活歴を把握し、会話、日常生活 へと記入している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの活動を午前と午後ともに記録し 午前中にバイタル測定を 行い、顔色等観察を行っている。又午前のバイタル測定で異常な所見も 観察し、午後にも観察を行っている。	○	昔取組んだ事のある活動を提供し、個々の有する 能力を伸ばしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の思いを良く聞き 課題、短期目標 取り入れる 具体的な介護計画を作成している	○	個々の計画がどのように進んでいるか、利用者の 変化について話し合いを持っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	6ヶ月1度アセスメントを作成し6ヶ月1度介護計画の見直し評価を行っている 介護支援専門員又は監理のもと、適切に話し合いをめている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別のケース記録と記入し実践や介護計画にとり入れている。	○	介護計画を参考に記録に活かしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	多機能性はないが、事業所のみでの支援を行っている	○	現時点では予定はない。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	緊急時とは、協力をいただける様に警察、消防、地域住民、家族にお願いしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	行っていない。	○	本人、家族の希望時とは、検討する。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	行っていない。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>入居後も利用されている。病院と後診と同行し、先生看護師と連携事項も聞き、健康管理には充分に注意をしている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>神経科と後診の対応悪い時は、対応の相談したり薬の調整も行って頂いている。</p>	○	<p>状態が変われば、その都度勤務者でカンファレンスも開いている。</p>
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所と看護職員が西に置かれており、相談したり、観察もして頂き、健康管理には充分に注意をしている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時に本人の状況が分かる。介護支援を提供し入院後は定期的に面会もしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>ホームでは重度化、終末期を向えられた方はいたく。入院では重度化した場合24時間居室の確保を行い医師と家族の話し合いにより、ホームでのケアが難しい場合は、外部の施設も紹介して頂いている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>現時点では、重度化、終末期を向えられた方はいませんが身体的機能低下が著しく見られる場合、家族と相談の上、老健施設等の申請も勧めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	行っていない	<input type="radio"/>	考えていません
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとり言葉掛けに注意し対応している。 個人情報も厳重に取扱っている。	<input type="radio"/>	
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定が出来る様、場面作りも行っており、納得いく程時間を掛け説明も行っている。	<input type="radio"/>	
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホムノ1日の流れも決まっているが、自分のペースで過ごさせている。	<input type="radio"/>	ドライフの際は、一人ひとりに声掛けをし、外出(入居者)と出掛け、作業の希望を取り、出来る限り要望に答えたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	化粧品の購入や美容室での整髪料等、本人の希望に沿う様、努めている。	<input type="radio"/>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者に合わせて、食べやすい、大きさを量にしている。 食前のテーブル拭き、食後の食器洗いや片付け等を職員と一緒にしている	○	歩行が苦手で入居者にも、ふらつきが見られない限りは、持てるだけ(エプロン等)の食器をカウンターまで下げて頂いている。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	週に一度買い物の日をモロケ、一人ひとりの希望を聞き、体調面にも配慮しながら購入し、気分転換も考え、利用者と一緒に買い物に行き様になっている	○	お菓子購入時、糖尿病や体重増加傾向にあり、おやつ抑制の乏しい利用者には、本人と話し合いのうえ、最少限の量にしている。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	他利用者にも配慮し、時間毎にトイレ誘導を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	川原着で、毛むくみをし、入浴時のパターンをこらわで決めて、毎回ローテーションで行っている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	強制せず、自由に「休息」に頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々に合わせて、花の世話、豚のしゃもじ詰め、お粥包み、ポイント集め、ドライブ等の外出を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	希望時、家族と相談の上所持して頂いている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	白鳥、めん羊場と見に行ったり、景色の良い所トドライブ、喫茶店等に行き、又衣類欲しいと希望時は見て購入し楽しんでいる。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と外出したい人は決まっている。昨年は、相川動物園にて楽しんで来た。	○	外泊したい人が少ない為、手紙や電話等で送られる機会をお願している
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望してその都度、出来る様支援を行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	仕事をしている家族が少く、仲間会に来られる。楽しいと言われる利用者があり、手紙で知らせかしている	○	訪問も少ないため、田内の回覧板にて、気軽に見学に来て頂ける様に機会作りも行っている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	行為に対しては理解しています。過去には帰宅原真望がお母さんに、私事としたり本人の思いを考慮し家族と話し合い拘束しないケアを取り組みました	○	今後も拘束のとは様々 利用者の思いにより、時には家族や先生の協力等でもケアに取り組む。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>66 ○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>車の自動ドア以外は開放している。</p> <p>自動ドアの開放は 開けば、おじ道で頻回に車が通り危険は為。その程度、必要な時開放している。</p>	○	<p>夏場は、東玄関を開放し、取員の見守りの中、芝生等の散歩を自由にさせている。</p>
<p>67 ○利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>1日の様子をパワックに引き継ぎをえている。</p>		
<p>68 ○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>利用者や家族と相談しお持ちとしている。</p>		
<p>69 ○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>内取場ニ皇にパワックに事故防止に努めている。</p> <p>行方不明、火災等はマニュアル作成をし訓練を行っている。</p>		
<p>70 ○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>救急マニュアルや応急手当の資料を配付し消防にも、救急講習も実施している。</p>		
<p>71 ○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>定期的に避難訓練を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人ひとりのリスク幅を話し合い課題を取り入れ、見守り、見守っている。 家族にも説明を聞いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日 バックアップを聞いている。変化のある人は職員全員が分かる様に連絡をし、対策と対応出来る様にしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的は分かるが、副作用は理解している。 変化があった際は、病院長談話をし、先生の指示も聞いています。	○	薬の目的、副作用と薬品カードで確認を行っている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日排便の有無を確認し、又分からない場合は、トイレの汚染を確認もしている。水分補給、運動の声掛けを行っている。	○	オヤツに乳製品を取り入れる工夫をしている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	朝、晩、歯磨きの声掛けを聞いている。就寝時には義歯を外し水を入れる様指導を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立を立てる際 バランス、栄養を考え、提供している。 1日1000cc以上水分が摂れる様に配慮し、入居時際には、1日の水分量のチェックを行っている。	○	水分が苦手な人については、ゼリー等で補っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成し実行している	○	お風呂場にも対応できる薬剤をもらって掃除を行い衛生管理に努めている
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒にマニュアルを作成し見守り場所別別 取組が各自し衛生管理を怠らない様としている。 食材は毎日配達の形を取り、新鮮な物を提供している。	○	居室の冷蔵庫は週1回チェックを行い、消費期限の切れぬ前まで消費し、切れぬ物は本人に確認して頂き、処分している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	施設前には大雨が降くうのオアシスが建ち、郵便ポストが設置し、雨降りや朝露が作りをしている。又安全に歩行出来る様スロープしている。5月にはプランターも植える予定で玄関がより綺麗になる		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の行事に合わせ、利用者から作成した作品もリビング等に飾り、月ごころ変わる絵画、またお造花をかざり目で見て楽しめる様配慮している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳のスペースもリビングには、ソファを置き、おこし、お茶の場所(座)をつくる様にしていく。 喫煙場所は、ファンで温度差を下げよう様配慮した。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は便利な物を用意して頂き、又入居される時、お風呂も気にして、着る物も用意して頂き、自由にお過ごし頂いている。	○	入居され、不穏状態になり、居室も分けることになる為、本人の居室と分かる様な物を会館内に知らせる工夫をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>84 ○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>温度、湿度もセンサーで換気を行い調節を行っている。</p> <p>トイレの造花と超音波噴霧器にて居室の脱臭と除菌を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>スロー バリアフリー 手回りが設置され、安全に歩行出来る様としている。</p>		
<p>86 ○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>残存能力を活かし、個々に動作、掃除、食器拭き、洗濯が自で行える様準備作りをしている。</p>		
<p>87 ○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ホムズに芝生が一面にあり、ハーフゴルフや日光浴を楽しんだり出来る様になっている。</p>	○	<p>夏場には、月から外出、草取り等を行っている様。 靴、傘等の準備を行っている。</p>



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98 職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ①室内だけではなく管外低下工場の為 出来るだけアウトにて散歩が様心掛けている。
- ②個々に合った食事(口味や減塩等)を提供している
- ③入居者の状態に合わせた勤務者でカンファレンスを用きよりよいケアに心掛けている。
- ④格安な入居料金を 充実した生活が出来る、個々に合った支援をしている。
- ⑤外部や市内(1階・2階)での交流出来る限り多くし 他者とのコミュニケーションを大切にしている。
- ⑥入居者と職員という枠にとらわれず、家族として信頼出来る仲間である事。